

再 評 価 調 書

I 事業概要					
事業名	交通安全対策事業（歩道及び自転車歩行者道設置事業）				
地区名	主要地方道 <small>たはらたかまつ</small> 田原高松線				
事業箇所	<small>たはらしたかまつちょう</small> 田原市高松町				
事業のあらまし	本路線は、田原市街地と旧赤羽根町 <small>あかばねちょう</small> を結ぶ幹線道路である。本路線については、旧赤羽根町側 <small>あかばねちょう</small> より歩道が整備されているが、一般県道 <small>たかまついしがみせん</small> 高松石神線との交差点より南側の本区間においては、歩道の整備がされておらず危険な状況にある。そのため、道路拡幅と歩道設置により、歩行者の安全確保を図るものである。				
事業目標	【達成（主要）目標】 交通の円滑化と歩行者等の安全性確保。 【副次目標】（必要に応じて記載する） —				
計画変更の推移		事前評価時 (2018年度)	再評価時 (2022年度)	変動要因の分析	
	事業期間	2018年度 ～2020年度	2018年度 ～2023年度	事業期間の変更	
	事業費（億円）	1.1	1.1	—	
	経費 内訳	工事費	0.7	0.5	精査によるもの
		用補費	0.2	0.4	精査によるもの
		その他	0.2	0.2	精査によるもの
事業内容	歩道設置 L=400m	歩道設置 L=400m	事業期間の変更		
II 評価					
①事業の必要性の変化	1) 必要性の変化	【事前評価時の状況】 当該路線の前後区間は歩道が整備されており中抜けの状況である。近隣には小学校もあり、安全な通行空間の確保が必要。 【再評価時の状況】 現状においても、当該路線の前後区間は歩道が整備されており中抜けの状況であり、近隣には小学校もあり、安全な通行区間の確保が必要。 【変動要因の分析】 変動要因なし			
	判定	B	A： 事業着手時に比べ必要性が増大している。 B： 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。 C： 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。 ※事業着手時と比較することが適切ではないと判断される場合は、「事業着手時」を「前回評価時」に置き換えることができる。		

		<p>【理由】 安全な通行空間の確保のため、事業の必要性がある。</p>																																																															
②事業の進捗状況及び見込み	1) 進捗状況	<p>【事業計画及び実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>2018～2021</th> <th>2022</th> <th>2023</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">工種区分</td> <td>調査・設計</td> <td>←→</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <td>用地補償</td> <td>←→</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>工事</td> <td></td> <td>←→</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">事業費(億円)</td> <td>当初計画</td> <td>1.1</td> <td></td> <td></td> <td>1.1</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>今回計画</td> <td>0.6</td> <td>0.5</td> <td></td> <td>1.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>【進捗率】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">これまでの計画に対する達成状況</th> </tr> <tr> <th>計画【①】</th> <th>実績【②】</th> <th>達成率(%)【②÷①】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延長(km)</td> <td>0.40</td> <td>0.00</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>事業費(億円)</td> <td>1.1</td> <td>0.6</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td> 工事費</td> <td>0.5</td> <td>0.0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td> 用補費</td> <td>0.4</td> <td>0.4</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td>0.2</td> <td>0.2</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※用地進捗率(面積ベース)は、100%</p> <p>【施工済みの内容】 部分共用済みの区間なし。</p>			2018～2021	2022	2023	合計	工種区分	調査・設計	←→			/	用地補償	←→			工事		←→		事業費(億円)	当初計画	1.1			1.1	実績	0.6			0.6	今回計画	0.6	0.5		1.1		これまでの計画に対する達成状況			計画【①】	実績【②】	達成率(%)【②÷①】	延長(km)	0.40	0.00	0%	事業費(億円)	1.1	0.6	55%	工事費	0.5	0.0	0%	用補費	0.4	0.4	100%	その他	0.2	0.2	100%
			2018～2021	2022	2023	合計																																																											
	工種区分	調査・設計	←→			/																																																											
		用地補償	←→																																																														
工事			←→																																																														
事業費(億円)	当初計画	1.1			1.1																																																												
	実績	0.6			0.6																																																												
	今回計画	0.6	0.5		1.1																																																												
	これまでの計画に対する達成状況																																																																
	計画【①】	実績【②】	達成率(%)【②÷①】																																																														
延長(km)	0.40	0.00	0%																																																														
事業費(億円)	1.1	0.6	55%																																																														
工事費	0.5	0.0	0%																																																														
用補費	0.4	0.4	100%																																																														
その他	0.2	0.2	100%																																																														
2) 未着手又は長期化の理由	用地境界確定に時間を要したため、完了年度を2023年度までに延伸する。																																																																
3) 今後の事業進捗の見込み	<p>【阻害要因】 用地取得は全て買収済みであり、今後の阻害要因はなし。</p> <p>【今後の見込み】 事業を着実に進め、2023年度には完了する見込みで。</p>																																																																
判定	<p>B</p> <p>A: これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な完成が見込まれる。 B: 次のいずれか(該当する項目に「○印」を付ける)</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 ○ これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 <p>C: 阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。</p>																																																																

		<p>【理由】 今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。</p>
<p>Ⅲ 対応方針</p>		
<p>継続</p>	<p>中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続：上記以外のもの。</p>	
<p>Ⅳ 事後評価実施の有無と主な評価内容</p>		
<p><input type="checkbox"/>対象（事業完了後 年目） <input type="checkbox"/>対象外 【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】 ー 【主な評価内容】 工事実施前後の交通状況（事故の発生状況）の変化と歩行者等の安全性の変化</p>		